

病院概要

名称：日本赤十字社東京都支部 大森赤十字病院

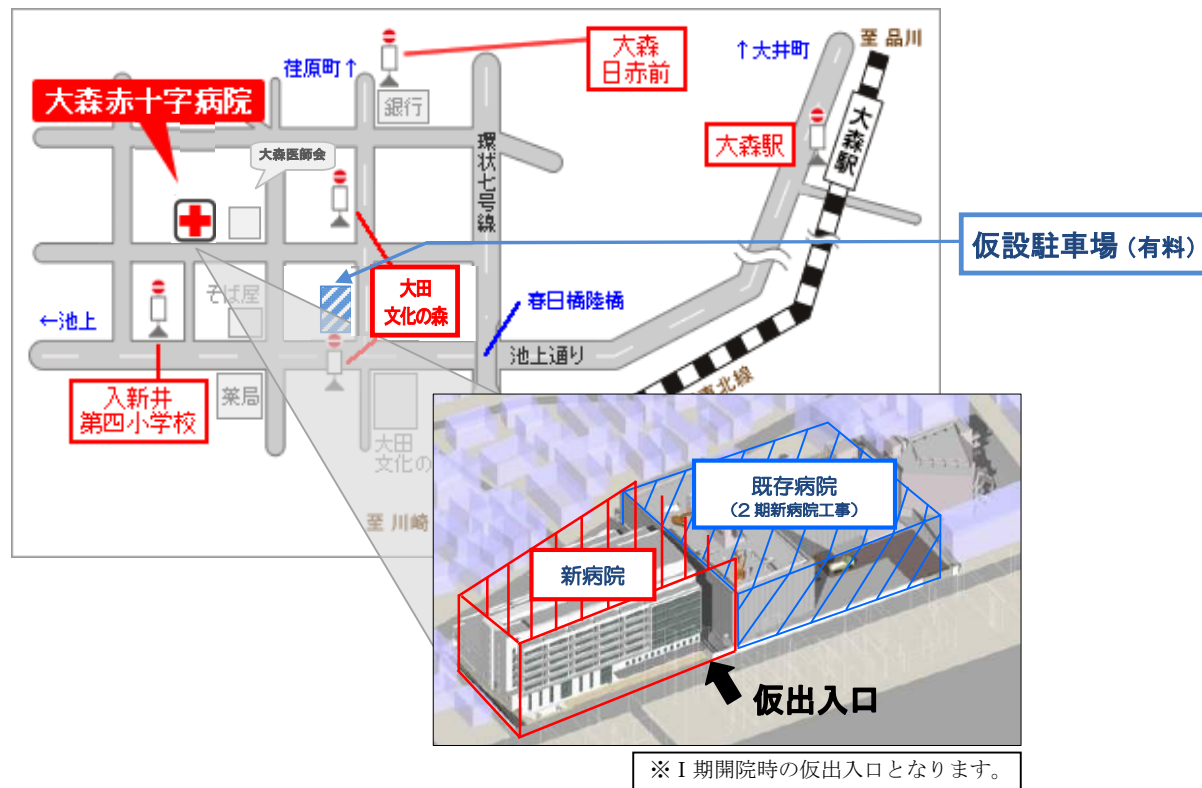
所在地：東京都大田区中央4丁目30番11号

受付時間：午前8時30分～11時00分迄 ※詳細は外来診療日程表をご確認ください。(救急は随時)

休診日：土曜日・日曜日・祝日・日本赤十字社創立記念日(5/1)・年末年始(12/29～1/3)

診療科：内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、神経内科、血液内科、糖尿病・内分泌内科、外科
呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、麻酔科、精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産科
婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科 人間ドック・各種健診

指定医療：各種健康保険・老年医療・生活保護医療(入院助産施設)・結核医療(通院)・養育医療・育成医療
身体障害医療・被爆者医療・母子健康法・特殊疾病医療・更生医療・労災保険・公害医療



〇アクセス

京浜東北線「大森駅」(約8分)

西口より東急バス①②③④番に停車するバスにて「大田文化の森」下車

東急池上線「池上駅」(約10分)

東急バス「大森駅」行きにて「入新井第四小学校」下車

東急大井町線「荏原町駅」(約10分)

東急バス「蒲田駅」「大森駅」行きにて「大森日赤前」下車

【車でお越しの方】(病院Ⅱ期工事に伴い、6/1(火)をもって旧病院中庭駐車場を廃止しました。

6/2(水)よりⅡ期工事期間中は、上記の場所を仮設駐車場(有料)とします。

期間中、車でのご来院の方にはご迷惑をおかけしますが、何卒ご理解、ご協力をくださいますようお願い申し上げます。

なお、仮設駐車場駐車台数に限りがありますので、満車の場合は、近隣時間貸し駐車場をご利用くださいますようお願いいたします。

ご自由にお持ち下さい

7

Japanese Red Cross Hospital Omori
Public Relations Magazine

大森日赤だより



北側上空より撮影

【基本理念】

信頼され心あたたまる病院

【基本方針】

1. 安全で質の高い・患者さまの立場にたった丁寧な医療を提供します。
2. 救急医療の充実と発展に努めます。
3. 地域医療連携を推し進めます。
4. 災害救護に積極的に取り組みます。
5. 経営の健全化を図りその成果を医療活動に還元します。
6. 医療従事者の教育と研修を推進します。

NEMU

- ・失明、腎障害、脳卒中、心筋梗塞・・・
さまざまな病気を招く『糖尿病』
- ・診療科紹介
私たちは患者さんの良き伴走者でありたい
『糖尿病・内分泌内科』
- ・新入医師紹介(5・6月採用)

さまざまな病気を招く 糖尿病

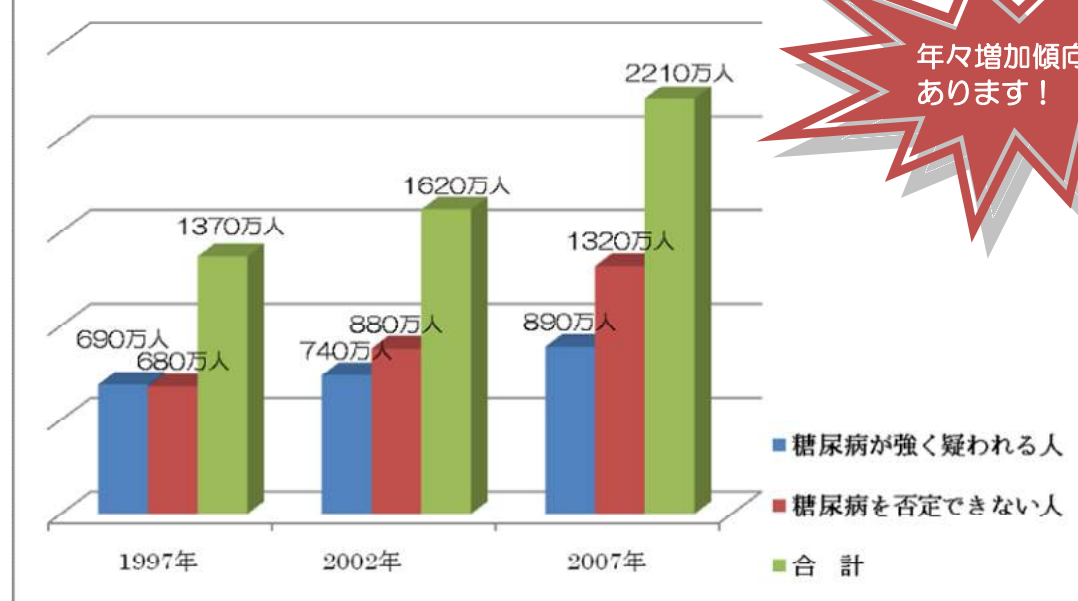
糖尿病・内分泌内科部長 きたざと ひろし 北里 博仁

厚生労働省の調査によりますと日本の推定糖尿病患者数は図にお示したように増加の一途をたどっています。皆さんのなかには「糖尿病は過食によって起こる。」あるいは「甘いものをたくさん食べると糖尿病になる」といった通念があるかもしれません。しかし実は戦後より現在に至るまで国民平均の摂取エネルギー（カロリー）はそれほど増加してはならず、むしろ食事に占める脂肪摂取の割合と運動不足の低下が引き金となって糖尿病患者さんが増えていると言われています。

この増加の一途をたどっている糖尿病はいわゆる生活習慣病と言われるもので、医学では「2型糖尿病」と呼びます。2型糖尿病は遺伝性が強くご両親やご兄弟、お子さんに糖尿病の方がいらっしゃる人が多いです。何が遺伝するのかというと残念ながら現時点ではその全ては明らかになっていませんが、「血糖値を下げる力が弱い体質」が遺伝するといったイメージは当たらずとも遠からずかもしれません。しかしこの「体質」をもって生まれたからと言って生まれたときから糖尿病を発症している訳ではありません。この「体質」に高脂肪食や運動不足に陥るような生活環境すなわち環境因子が加わると、この「血糖を下げる力が弱い体質」が芽を出し始め糖尿病に至るわけです。この事こそが2型糖尿病が生活習慣病と言われる所以なのです。

ところで何故今、糖尿病が社会問題になっているのでしょうか。現代では高血糖で命を落とすことは希です。実は高血糖が続いていると、失明したり腎臓障害をおこして尿を出せなくなったりしびれや痛みなどの神経障害が起こったり足や趾（あしゆび）が腐って壊疽を起こしたりする、糖尿病合併症と言われるものを起こす危険があるからです。糖尿病による失明は年間約3,000人で中途失明原因の第2位、糖尿病による腎障害で年間15,000人以上の方が新規血液透析になり、糖尿病が原因で年間約3,000人の方が壊疽で足を切断し、脳卒中や心筋梗塞は約3倍起こしやすいと言われています。したがって糖尿病の治療目的はこうした合併症を予防することが目標であり、血糖値を下げることは合併症予防のための手段なのです。

日本の推定糖尿病患者数



年々増加傾向にあります！

厚生労働省：糖尿病実態調査、国民健康栄養調査
http://www.mhlw.go.jp/houdou/2008/12/h1225-5a.html より

私たちは患者さんの良き伴走者でありたい

『糖尿病・内分泌内科』

大森赤十字病院は、「信頼され心あたたまる病院」をめざして更なる飛躍を遂げるために平成22年5月7日より新築した病院で診療を開始し、併せて糖尿病・内分泌内科を4月より新設しました。新設の目的は、これまで各科で行っていた糖尿病や脂質異常症などの代謝疾患やバセドー病や橋本病などの内分泌疾患の診療を糖尿病・内分泌内科に集約する事で、より専門性の高い医療を提供し増え続ける糖尿病予備軍の方々や糖尿病患者さんにより良い啓蒙、アドバイス、治療を適切に行うことにあります。

現在、糖尿病・内分泌内科は週3回の専門外来を日本糖尿病学会認定糖尿病専門医が担当し診療を行っております。受診当日診察前に血液・尿検査を行っていただき、その結果と運動や食事、生活環境の変化など療養生活全般の聞き取りや自覚症状などから、その後の治療方針や検査計画などを患者さんと相談し共有しながら診療を行っています。糖尿病は患者さん個々に病気の状態や生活背景が異なるため非常にきめ細かい多様な治療が必要になります。そのために糖尿病・内分泌内科には日本糖尿病療養指導士認定機構から認定された糖尿病療養指導士が6名、管理栄養士が3名常駐しており、内服薬やインスリン治療、自己血糖測定などの方法やコツ、注意点などの説明や、患者さんの食事や療養生活全般にわたる相談やアドバイスを診察とは別に時間を設けて丁寧に行っています。

会社や地方自治体などの健康診断で「糖尿病の気があるよ」、「おしっこに糖が出ているよ」、「血糖値が高いよ」等と指摘されたり、家系に糖尿病の方がいたり、体重が増えてきたら、糖尿病・内分泌内科を一度受診して相談されることをおすすめします。また既に糖尿病と言われている方や治療中の方で、ご自身の糖尿病治療や療養生活をもう一度考えてみたい方も是非受診されることをおすすめします。

糖尿病治療は生活習慣や生活環境と密接に関連するので正に「治療の主役は患者さん！」です。そして私たちは「糖尿病患者さんの良き伴走者」でありたいと考えています。糖尿病は長くつきあってゆく病気ですので時には糖尿病治療に少し疲れて休みたくなる事もあるでしょう。そんな時も伴走者である私たちは傍であなたを見守っています。そしてまた歩き始める元気が出てきたら・・・また一步一步一緒に前へ進みましょう。

外来日程表

	月	火	水	木	金
午前	北里			北里	
午後			北里		



糖尿病・内分泌内科部長 きたざと ひろし 北里 博仁
 出身大学：秋田大学
 専門分野：糖尿病・代謝・内分泌
 学会認定
 専門医等：日本糖尿病学会専門医・指導医、日本内科学会総合内科専門医、日本医師会認定産業医、日本医師会認定スポーツ医、日本病態栄養学会評議員

新入医師紹介

5月・6月から新しく勤務しています医師を紹介します。

5月

所属 脳神経外科 氏名 かみ いっせい 菅 一成
 専門分野 脳神経外科一般
 出身大学 東京慈恵会医科大学



6月

所属 整形外科 氏名 さいとう なるき 齊藤 宗樹
 専門分野 関節外科、整形一般 出身大学 東邦大学
 自己紹介 地域医療に貢献したいと思っています。

詳細はホームページをご覧ください。